

学会会合記録

50年9月～11月

カッコ内は出席者数

庶務幹事会 9.3(4) 9.19(4) 10.20(6) 11.13(9)

研究普及委員会・幹事会 9.5(9) 11.10(4) 11.14(10)

編集委員会 9.27(7) 10.25(7) 11.29(7)

第5理事会 9.30(14)

- 議題 1. 前回理事会議事録の承認
 2. 臨時総会開催について
 a. 定款の一部変更について
 b. 会誌刊行に関する変更について
 c. その他
 3. 細則の一部変更について
 4. 評議員会開催について
 5. 入退会について
 6. 秋季大会について
 7. 研究普及委員会報告
 8. 新会誌について
 9. 支部長会議について
 10. その他

臨時理事会 11.6(12)

- 議題 1. 機関誌論文誌名称の件
 2. 「オペレーションズ・リサーチ」広告取扱
 いについて
 3. NOCの解散の件
 4. OR国際会議収支について

評議委員会 9.30(12)

IFORS 経理委員会 10.23(4)

IAOR 委員会 10.27(2)

支部長会議 11.5(12)

入 退 会

50年8月21日～11月13日

●入 会

(正会員)

(氏 名)	(所 属)
松 島 岩 樹	(株)中国新聞社
広 瀬 嘉 道	三井石油化学工業(株)
吉 岡 修	三菱石油工業(株)
中 堀 一 郎	三菱電気(株)
Walten R. Nunn	Center for Naval Analyses
末 田 直 道	東京芝浦電気(株)
根 本 忠 明	青山学院大学
山 本 富 夫	三菱電機(株)
石 塚 俊 雄	(株)コンピュータテクニクス
遠 藤 力	福井県立短期大学
大 石 迪 夫	福岡大学
中 川 国 志	鐘淵化学工業
中 村 忠	川崎医科大学
宮 地 功	津山工業高等専門学校
山 本 博 雅	東京ガス(株)
荻 野 勝 哉	京都大学
西 林 忠 彦	電々公社

(学生会員)

(氏 名)	(学 校)
神 田 範 明	東京工業大学
盧 淵 源	慶応大学
粕 谷 常 行	中央大学
平 松 寿 昭	大阪大学
加 藤 直 樹	京都大学
玉 置 光 司	大阪大学
戸 田 常 一	京都大学
住 田 修 一	京都大学
水 庫 功	慶応大学
小 田 哲 久	早稲田大学
浜 野 雅 信	大阪大学
野々村 辰 彦	慶応大学

井 辻 英 雄 大阪大学
村 上 辰 男 大阪大学

ご協力ください

●退 会

(正会員)

宇田川 和 利 帝都高速度営団
佐 藤 一 日本電気(株)
森 寿五郎 関西電力(株)
今 泉 吉 春 神戸市立工業高等専門学校
後 藤 将 夫 新日本製鉄(株)
津 曲 直 躬 東京大学

6 名

(賛助会員)

日本アイ・ビー・エム(株) 福岡営業所

1 社

他学会ニュース

第20回制御理論部会(計測自動制御学会)

ORと制御理論の境界領域

計測自動制御学会の第20回制御理論部会は11月7日東京において「ORと制御理論の境界領域」をテーマに、大阪大学工学部田村坦之氏、東工大工学部古田勝久氏の2つの講演を行なった。

田村氏は、最適化アルゴリズムの観点から、古田氏はフィードバック理論の見地から接近した。ここでは田村氏の講演を紹介する。

ORは多変数問題を、制御は動的問題を得意とするが、多変数の動的モデルを扱うときに、ORのKuhn-Tucker条件を用いて制御の最大原理を証明してアルゴリズムを考える。多変数 ARMA (Auto Regressive Moving Average) モデルの離散型最適制御問題を例にとって説明された。また同じ例について、制御におけるハミルトニアンや随伴変数が、数理計画や経済学におけるコスト関数やラグランジ乗数(限界費用)と同様に解釈できることを示した。

アブストラクターへのお誘い

44—45ページの文献紹介欄は多数の抄録者のご尽力によってはじめて運営可能なページです。さしあたり約60名のメンバーで発足しましたが、担当雑誌によっては抄録者の負担が相当大きいものもあります。疲れないうちに、たとえば半年か1年のうちに、順にバトン・タッチしてあげなくてはと考えていますので、どうかご協力くださるようお願いいたします。

この雑誌なら担当して抄録を作れる、というお申し出を編集長または担当者までお寄せください。

国際ニュース

IIASA (50ページの Raiffa 氏の講演記録をご参照ください) からの出版物は同日本委員会(事務局: 情報処理研究センター [〒105 東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 7 階 電話 (03) 435-6511] 内 IIASA 係) で閲覧できるようになっていますので必要な方はお問合せください。

これとは別に、森口会長を通じ当学会にもその若干が送られてきています。編集委員会では、適当な形で紹介することも考えております。

編集委員会の構成

下記の担当を設けておりますので、適宜ご連絡ください。

論文誌 渡辺浩(筑波大・社工系) 梅沢豊(東大・経)
特 集 江藤肇(日立・システム開発研究所)
解 説 高森寛(青山学院大・経)
フォーラム 江副力(電々公社・経営調査室)
文 献 岸尚(防衛大・応物) 森雅夫(茨城大・工)
ニュース 江藤肇(日立), 高橋誠(電力中研)
広 告 小島光造(エマーズ)
総 括 森村英典(東工大・理)

▶投稿歓迎◀ 新企画のいろいろ

編集委員会では、皆さまのご意見をお聞きしながら、多くの方に喜んでいただける誌面づくりを心がけておりますので、どしどしアイデアをお教えてください。

現在、編集委員会で考えている投稿の欄には次のようなものがありますので、ぜひお気軽に投稿してください。そして、会員相互の啓発、情報の交換、ひいてはわが国ORの発展のための場として育ててくださるようご協力ください。

〔事例ショート・ショート〕 皆さまの手がけた事例をごく簡単に紹介するページです。「OR事典」の事例編を見られれば、表題を含めてわずか18行という短い空間に圧縮された内容でも、結構何をやったかということはわかることに気がつくられると思います。と同時に、秘密のことは伏せていただいたとしてもあまり気にならないと思われます。もちろん、社名や執筆者を匿名にしていたいても結構です。（この場合は1年分まとめて、投稿者のお名前を記載させていただく予定です）目的は、いろいろなところで、いろいろなことがやられていることを知らせ、OR活動の雰囲気づくりに役立たせることです。ので、大小にかかわらず、特に脱数学の事例や既成の手法によらない事例も、ふるって公開してくださることを希望します。

分量は25字×20～100行くらい。必要があれば図や表を付しても構いませんが、なるべく簡単なものがよろしい。事例の目標、解析の方法（または経過）、結論と実施

編集後記 ▼この雑誌の編集に携わるようになったとき、K₁氏が1冊の本を貸してくださった。外山滋比古著「エディタージュ」

▼編集の心得を勉強せよ、ということかと思ひながら、一読して驚いた。その中から、引用を1つ。

▼「エディタージュ不在に近い学術書がしばしば非創

後の反省などの3部にわけるともりでご執筆ください。〔アイデア・バンク〕よく、「Q&A」という欄のある雑誌があります。読者が誰かに質問したい「Q」を投書すると、適当な人が「A」を答える形式のものです。この形式をもっと幅広くし、答える側も投稿にしようというわけです。「Q」を出したい方は、広く会員読者にチェを借りるつもりで投稿してください。もちろん、大小、難易を問いません。それを見て「こんな考え方ができるのでは……」と思った方も投稿してください。面白い話に発展するようでしたら、編集委員会では改めてご執筆依頼をするつもりです。し、場合によっては、読者の人気投票でアイデア賞を決める、といった趣向も考えられましょう。

「Q」も「A」も同一人が書かれる投稿があってもよいでしょう。これは「アイデア登録」といった類のものとなるわけですが、こうして会員・読者のアイデア・バンクを育てていくのも夢の多い仕事ではないでしょうか。

〔木間々勇造〕 日科技連時代の本誌には「ORマンの抵抗」というコラムがあってかなり評判のよいものでした。この欄の執筆者のペンネームをお借りして、学会活動やOR界全般について、気ままに発言していただく欄をつくろうかと考えております。

この他、36ページと53ページに掲載したように、総合報告や明日への数字といった欄も投稿を主体と考えておりますし、特集記事に対する具体的な議論などもフォーラム欄で取り扱うつもりですから、積極的なご協力を心からお待ちしております。

造的で生硬難解なものになるのは故なしとしない。これは近代日本の学問が不毛であった原因のひとつであるかもしれない

▼第1号の原稿を集めたとき、割付を引き受けてくださったK₂氏がふっと言った。「外山さんの“エディタージュ”お読みになりましたか」 (H)

オペレーションズ・リサーチ

昭和51年1月号 第21巻（新シリーズ第1巻） 1号 通巻181号

編集発行人 森村英典

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2)

発売所 株式会社 日科技連出版社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2

本誌の直接ご注文は

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 600円（郵送料含） 年間予約購読料 6,600円（郵送料含）